様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：２７１０３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ１８２４２

研究課題名（和文）戦後日本におけるアブノーマルなセクシュアリティと近代化/反近代化論

研究課題名（英文）Abnormal sexuality and modernisation/anti-modernisation in post-war Japan

研究代表者
河原　梓水（Kawahara, Azumi）

福岡女子大学・国際文理学部・講師

研究者番号：７０７２６０１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、変態雑誌『奇譚クラブ』の1950年代のテクスト群を主たる分析対象とし、サドマゾヒズムを媒介とすることで行われた近代化論・反近代化論の展開を明らかにすることを目的として実施した。具体的には『奇譚クラブ』における夫婦生活を題材にする告白作品、戦中派知識人によって書かれたマゾヒズム作品、とりわけ「家畜人ヤプー」を分析した。成果として、5回の学会発表・招待講演、2本の論文を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、日本で初めて実施されるサディズム・マゾヒズムおよびSMに関する歴史研究である。主たる分析対象とした変態雑誌『奇譚クラブ』は、著名な知識人が多数匿名で執筆しており、貴重な史料であるが、これまでほとんど分析されることはなかった。『奇譚クラブ』の高い学術的価値を示すとともに、『奇譚クラブ』を用いて戦中派知識人の戦後思想を分析したことは高い学術的・社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：This project was conducted with the aim of clarifying the development of modernization and anti-modernization theories that took place through the medium of sadomasochism, using a group of texts from the 1950s of the perverse magazine Kitan Club as the main object of analysis. As a result of this, five presentations and invited lectures were given at conferences and two papers were published.

研究分野：歴史学

キーワード：サディズム　マゾヒズム　奇譚クラブ　BDSM　SM

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、第二次大戦後に創刊された変態雑誌『奇譚クラブ』を主たる分析対象とし、知識人が同誌に匿名で執筆した、サディズム・マゾヒズムを媒介とする近代化・反近代化論・女性解放論、デモクラシー論を分析してきた。これまでの日本セクシュアリティ研究、メディア研究で注目されてきたのは、ベストセラーとなった書籍や大手雑誌・新聞、著名人物の著作であり、大衆的であることが同時代を代表することとイコールのように語られてきた。しかし、大手メディアで展開される言説には公共性に基づく抑制が働くことを考慮しなければならないし、公では議論のしづらいテーマは浮上すらせず、分析対象から外れてしまう。『奇譚クラブ』のようなアンダーグラウンド・メディアには、大手メディアの言説がはらむかかる欠点がなく、率直・赤裸々にして過激な言説を抽出することができる。マニア雑誌だからといってその影響力が過小ではないことは、多数の知識人が『奇譚クラブ』を購読していたことを後に告白していることからも裏づけられる。寄稿者の多くは匿名執筆であるが、実名比定が可能な知識人も多くおり、実名の業績を補完する論として読むこともできる。これら戦後知識人の「裏の思想」とも呼ぶべき貴重なテクストが等閑視されていることは大きな損失である。基礎研究を含めた多角的な視角から研究が推進される必要がある。

２．研究の目的

したがって本研究は、1950 年代『奇譚クラブ』誌上の小説を中心としたテクスト群から、まず、近代的人間像の特異な模索法と、ビキニ事件を画期とした反近代化論の有り様を抽出することで、これらの議論の背後にある戦争・占領体験、人種差別への怒りや悲しみ、近代化へのとまどいなどを明らかにする。そして、これらの負の感情が、サディズム・マゾヒズムを媒介とすることで、いかなる思想へと転化されたのかを明らかにすることを目的として実施した。

３．研究の方法

本研究は、以下 2 つの視角から 1950 年代の『奇譚クラブ』のテクスト群を分析し、日本の戦後思想と戦後日本社会の新たな側面を浮き彫りにすることを目指した。

【A 告白ポルノを読み直す―キンゼイ報告以後の告白の機能―】

『奇譚クラブ』の半数以上を占める告白・実録風のポルノ小説の分析を行った。これらは明らかにポルノであるが、同時に、批評や学術的記事と等しく研究・探究として称賛されており、その際の必ず引き合いに出されるのが、1950 年・1953 年に邦訳された米国のセックスレポート、通称キンゼイ報告である。一般米国男女の性の実態を科学的に集積したキンゼイ報告は、おそらく告白という行為に学術的意義を与えた。フーコーが指摘した告白の装置の再演がここに見られるが、かかるキンゼイの受容の仕方は自明ではなく、キンゼイの継承者を自負した高橋鐵が主催した雑誌『あまとりあ』では見られない。サドマゾヒズムの告白が自己の真理の発見である以上、『奇譚クラブ』で展開されている議論は、戦後盛んに議論された近代的自己の探究と密接な関連を持つ。そこで本課題では、(1)両者の相違の背景を分析することで、『奇譚クラブ』における告白ポルノの位置づけを明確化する。(2)(1)の成果に基づき、告白ポルノに表れた自己の探究→近代的人間像の模索の様相を明らかにし、さらに、それがポルノとしても機能し得たことの理由を明らかにする。

【B 反近代化論の射程】　研究代表者はこれまで戦後のリベラルな近代化論者の言説を検討

してきたが、『奇譚クラブ』では、サドマゾヒズムを介することで、一般的な近代化論・日本人論について疑義が呈される場合も少なくない。戦後思想史研究において、反近代化論は検討に足るテクストが不十分なためか取り上げられることが少ないが、『奇譚クラブ』においては、主に戦中派知識人によって、戦後社会において決して公にすることのできなかった反近代化の思想が、マゾヒズムを介して吐露されている。これらは、戦中派知識人が、いかに青年期に身に着けた皇国史観やナショナリズムと向き合い、戦後を生き延びたのかという問題を考える上で重要であり、分析を加えた。

４．研究成果

A については、『奇譚クラブ』の告白作品のうち、夫婦間の性生活をテーマとするものを中心に分析した。これらをキンゼイ報告や、雑誌『あまとりあ』にみえる夫婦の性生活描写と比較検討した。結果として、キンゼイ報告や『あまとりあ』が、科学という権威をベースに、客観的事実としての性行為を描写しようとしていたのに対し、『奇譚クラブ』の告白作品は、むしろ同時期に展開していた生活綴り方・記録運動における近代的自己の模索に類似する行為であるという結論を得た。本成果は、数度の学会発表、招待講演を行いブラッシュアップした上で、現在論文として執筆中である。

B については、究極のマゾヒズム小説と呼ばれた沼正三（倉田卓次）著「家畜人ヤプー」を検討対象とし、論文として発表した。倉田は 1922 年生まれ、旧制一高から東京帝国大学へと進学しており、戦中派知識人に該当する。彼の倉田名義での著作及び成育歴を資料として対照させながら、「ヤプー」においてマゾヒズムがいかに機能しているのかに注意を払い検討を進めた。すなわち、彼のマゾヒズムは、戦後もはや表明することのできない愛国心やナショナリズムを逆説的に肯定するための根本理念として機能しており、本作で描かれる、日本人が白人の家畜とされた世界には、実は大日本帝国の構造をより洗練させ理想化した世界が重ね合わされている。同じく戦中派であった三島由紀夫は、「ヤプー」を熱烈に支持していたことが知られ、彼が沼と同じように「ヤプー」にナショナリスティックな欲望を見出していた可能性を指摘した。

その他、同時に進行した特別研究員奨励費における研究課題の成果と、本研究課題を進める上で得られた知見を総合し、日米におけるサディズム・マゾヒズム、ＳＭ概念をめぐる相違を論じた論文１本を公表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 河原梓水	４．巻 -
２．論文標題 マゾヒズムと戦後のナショナリズム―沼正三「家畜人ヤプー」をめぐって―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 坪井秀人編『戦後日本文化再考』、三人社	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 河原梓水	４．巻 3
２．論文標題 現代日本のSMクラブにおける「暴力的」な実践：女王様とマゾヒストの完全奴隷プレイをめぐって	５．発行年 2021年
３．雑誌名 臨床哲学ニューズ・レター	６．最初と最後の頁 148-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79260	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　3件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Azumi Kawahara
２．発表標題 Sadomasochism Fascinated by Modernity: The Other Alternative Obtaining Autonomy in Post-war Japan
３．学会等名 JSAA 2019 Biennial Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Azumi Kawahara
２．発表標題 Democracy, Feminism and Sadomasochistic Desire in Post-war Japan
３．学会等名 International Conference on Sexuality 2018: Health, Education and Rights（タイ国バンコク市）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 河原梓水
２．発表標題 性の告白と戦後日本―変態性欲に対する2つの態度―
３．学会等名 日本史研究会7月例会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 河原梓水
２．発表標題 性の告白と戦後日本―変態性欲と「あたらしい愛情」―
３．学会等名 京都大学人文科学研究所・セックスワークセミナー（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 河原梓水
２．発表標題 ビキニ事件と「家畜人ヤプー」
３．学会等名 第15回共同研究会「戦後日本文化再考」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Azumi Kawahara
２．発表標題 Azumi Kawahara, Democracy, Feminism and Sadomasochistic Desire in Post-war Japan
３．学会等名 International Conference on Sexuality 2018: Health, Education and Rights（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関